

|        |  |
|--------|--|
| 研究課題   | ICT を活用した教員ネットワークの形成と双方向型情報共有による子どもアシストシステムの構築 |
| 副題     | ～通級指導担当教員の連携と ICT を活用したサポートで必要な支援を子どもたちの手に届ける～ |
| キーワード  | 通級指導・オンライン研修・情報リテラシー・ネットワーク活用                  |
| 学校/団体名 | 守口 Resource room 研究会                           |
| 所在地    | 〒570-0012 大阪府守口市大久保町2丁目17-26                   |
| ホームページ |  |

## 1. 研究の背景

通級指導のニーズが高まり、教室の新設設置が毎年のように行われるようになった。しかし、これまでに通級指導を担当した教員は極端に少なく、経験のある教員が担当となることはない。そのため、児童の自立活動課題の指導を行うための豊富な知識やスキルを担当教員自身が身につけることや、設置校内で教員間の共通理解を図るための働きかけを行うことに大変苦労している現状がある。また、2021年度はコロナ禍による学年閉鎖などに伴い、速やかにオンラインを活用し、途切れなく指導を行えた学校があった一方で、指導が中断されてしまう学校もあった。そこで、通級指導経験のある担当者を中心に、ICTを活用して情報や指導法を共有する強固なネットワークを築くことで、どの児童にも必要な支援がより早く、児童の手に渡るのではないかと考え、本研究に取り組むに至った。

## 2. 研究の目的

通級指導担当教員には、的確なアセスメントと児童の困り感に対応した指導が求められる。しかし実際には、担当教員を経験して初めて、どの領域について学ばよいか理解し、学びのResourceを探し始めるという現状がある。そこで本研究では、特別支援教育士、公認心理師などの資格を有する教員が中心となり、オンラインによる研修の企画や指導法の検討を行うことにより、教員ネットワークを活用しながら児童を指導する力を通級指導担当教員が身に付け、より多くの児童に支援を届けることができるようになることを目的とする。具体的には、①オンライン会議システムの利用やクラウド上でファイルを共有するなどのICTを活用する力、②標準化されたアセスメントを用いて、児童の実態を客観的に評価する力、③指導法検討を通して、アセスメントと指導内容の連動性について確認し、指導内容を精選する力、の三つが必要であると考え。これら三つの力が指導の中でうまく発揮されれば、児童が自分で学習するための手段として、タブレット端末をより効果的に使用した指導が展開できるようになる。児童の学習に必要なアプリを選択したり、児童に合った教材やアプリを使用して教員や児童本人が必要なデータを作成したりするなど、児童が自分自身でタブレット端末を使用して学ぶ機会が増えれば、個別最適な学びへとつながるのではないかと期待し、本研究を進めていく。

尚、本研究では、クラウドに残すファイルには個人の特定につながる記載はせず、共有も研究会内に止めることを確認するなど、個人情報の保護に留意しながら指導法の検討を行った。

### 3. 研究の経過







**第1期**：知識インプット期 **第2期**：実践アウトプット期 **第3期**：実践ブラッシュアップ期

| 月                 | 内容   | 情報共有に必要なスキルと支援   |
|-------------------|--|--|
| 4月                | 通級指導担当者グループ作成・ICT機器の購入   | Teams, Line へのアクセス     |
| 5月<br><b>第1期</b>  | ・音声付きファイル共有・オンライン研修開始<br><b>1-①</b> ひらがなの読み書きが苦手な児童の指導の実際 (iPad のアプリを使って)  | ・共有されたファイルの確認<br>・Forms での回答 <br>・オンライン会議への参加    |
| 6月                | アセスメント用品の購入、配布<br>☆ICT活用や基礎的知識を問うアンケート実施<br><b>②</b> LDI-R、 <b>③</b> URAWSS II、 <b>④</b> STRAW-R について<br>☆1学期ふりかえりアンケートの実施   | ・定時研修への参加 <br>・共有ファイルの事前確認 <br>・Forms での回答    |
| 7月                | オンライン研修 講師：薄 洋介先生 (江戸川区立大杉小学校ことばの教室)   | ・共有ファイルの事前確認    |
| 8月                | 対面研修 講師：伊藤 陽子先生 (仙台市立八乙女中学校通級指導教室)   | ・共有ファイルの事前確認    |
| 9月<br><b>第2期</b>  | <b>2-①</b> 発表ファイルのまとめ方、<br><b>②</b> 子ども理解が始まるインクルーシブ教育<br><b>③④⑤</b> 小学校事例検討   | ・プレゼンテーションの作成 <br>・Teams でのファイル共有 <br>・Zoom の画面共有   |
| 10月               | <b>⑥</b> 発音指導について<br><b>⑦</b> 小、 <b>⑧</b> 中学校事例検討  | 上段の3つのスキルがうまく獲得できない教員への支援 (対面)   |
| 11月<br><b>第3期</b> | <b>⑨</b> 、 <b>⑩</b> 小学校事例検討<br>☆ <b>第2期を終えてアンケート実施</b><br><b>⑪⑬</b> 継続事例検討、 <b>⑫</b> Keynote アプリのハンズオン研修、 <b>⑭</b> 小学校新規事例検討 | ・Zoom への接続や発表内容確認 <br>・Forms での回答  <br>・アセスメントの活用、教材やアプリの選定   |
| 12月               | <b>守口市教育研究会支援教育部会で本研究の取り組みを発表</b><br><b>⑮</b> 新規事例検討、<br><b>⑯</b> アセスメントと指導の連動性について<br>個に応じた支援のために (対面研修)                    | <b>研究会参加者がファイル共有した教材を教師用タブレットで編集する実技研修を実施。</b>   <br>・担当教員同士でモデルとなってアセスメントの実技演習   |
| 1月                | <b>3-①</b> 教育相談について、 <b>②③</b> 新規事例検討  | ・アセスメントと連動した指導   |
| 2月                | <b>④⑤</b> 担当1年目の教員によるアセスメントを活かした指導と ICT 活用の事例発表  | ・アセスメントを活かした指導内容の精選と効果の実証  |
| 3月                | 1年間のふりかえりと次年度の課題提案<br>☆ <b>第3期を終えてアンケートを実施</b>   | ・Forms で回答後共有   |

#### 4. 代表的な実践

##### 1) 教員ネットワークの形成と情報活用に至るまで

市内で同じ端末やアプリを使用する研修を受けていても、所属校によって活用度が大きく異なることや、各校の通級指導担当教員が身に付けているスキルに差があったため、当初は共有したファイルを開くことすら難しかった。そこで、まずは LINE で連絡を取りながらスモールステップで、基礎知識までサポートすることから取り組んだ。

| 取り組んだ内容  | 発生した困難  | 解決の方法   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションスライドに解説音声をつけて配布し、知識を伝達する</li> <li>・Teams でオンライン会議を開く</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルを校務用 PC で開き、内容が確認できない (iPad を購入または貸与していたが、OS の違いにより開けないことを理解できない)</li> <li>・校務用 PC 使用の際にはマイクとカメラが別途必要</li> <li>・PC のアプリが古く、ブラウザ経由で参加は可能であるが接続が不安定</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad か iPhone で Team にアクセスするよう連絡 </li> <li>・ファイル共有するには二種類で  </li> <li>・ミーティングの際は Zoom の教育用アカウント (無料) を使用、オンライン研修を行う際には、助成金を活用し、月プランを契約 </li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者が指導実践をまとめたプレゼンテーションを作成し、Teams でファイル共有</li> <li>※まとめ方についてミーティングで説明し、ファイルも共有済み</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションを作成できない</li> <li>①児童の実態の記述の方法</li> <li>②アプリを使う技能</li> <li>・共有の仕方が分からない</li> </ul> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>①②について上記の方法で解決できない場合は、ICT に不慣れであり、心理的障壁が発生していることもあるため、当該校へ行って、直接指導 (スキルと心理支援) </p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者がスライド作成後、希望があれば接続確認をし、内容確認を求められたらオンラインでサポート</li> <li>・自分で調べる・詳しい同僚や ICT 支援員に質問する</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインミーティングで発表したり、アプリのハンズオン研修を受けたりする。</li> </ul>   | <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">             ミーティングには参加できるが話す自信がない         </div> <span style="font-size: 2em; color: red; margin: 0 10px;">→</span>   | <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">             対面またはオンラインでサポート              </div>   |

研修を受けることには寛容であるが、自分の実践を公開することには、クローズなチームであっても、経験年数に関わらず心理的ハードルが高い教員がいた。自分の指導は変わらない、タブレット端末を使用した指導は行わないと述べる教員に対しては価値観の転換が必要であった。

## 2) ICT を活用したネットワークの活用



写真1：オンライン研修



写真2：対面研修

通級指導に必要な専門知識やスキルを身に付け、児童のニーズに合った ICT を活用した指導ができるようになるために、通級による指導に関する豊富な知識を持ち、ICT を活用した指導実践を行っておられる先生方による研修会を行った。オンラインによる研修（写真1）を実施した際には、コロナ第7波の渦中であったため、自宅から研修に参加した担当教員が半数であり、研修を確実に受けるという点では功を奏した。一方で、対面で行った研修（写真2）では質問に対して、臨機応変にその場で回答して頂いたり、質問に出たアプリのハンズオン研修を行ったりする等、対面ならではの良さがあった。

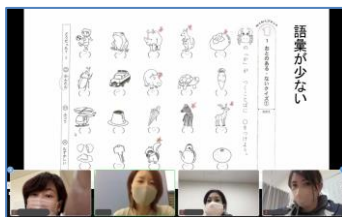


写真3：定時ミーティング  
（オンライン）



写真4：対面で行ったアセスメント研修

1 学期から給食指導、昼休みの計 30 分を使って毎週行ってきたオンラインによるミーティングでは、夏休みまでを知識インプット期と考え、通級指導に必要な知識についての伝達を行い、2 学期からはアウトプット期として指導法の検討を行った。短時間で検討を行うため、児童の実態の記述の方法や、使用教材などのまとめ方のフォーマットを示し、それに沿ってプレゼンテーションファイルを作成し、事前に共有後、定時ミーティングで発表する形式にした。各校の発表では、それぞれの担当教員が市販教材だけでなく、独自に作成した教材も使って、熱心に指導している様子が伺えた。ところが、児童の実態と指導内容の整合性については、不確かな面もあり、質問があっても回答しづらい様子であった。そこで、標準化されたアセスメントの活用も促し、実践をブラッシュアップしていくことに 2 学期後半からは取り組んだ。また、実際に標準化されたアセスメントを使用する際には、保護者の同意や本人への説明、アセスメントの結果をどのように指導に活用するのか説明をする責任を伴う。そこで、学校でも実施できるアセスメントについては対面研修を行い、子ども役、検査者役となって練習し、疑問点はその場で話し合っ解決した上で、所属校で実施し、指導内容を精選していくことにした。オンラインによる研修は計 10 回、指導法の検討は計 15 回実施した。また、アプリの使い方については、学校長の許可を得て、必要時に他校の児童・生徒にもオンラインで指導した。

5. 研究の成果

オンラインミーティングにより指導内容が精選された3つの指導モデル

| A校（自校通級）  | B校（他校通級）  | C校（支援学級在籍児童）  |
|---|---|---|
| <p><b>読み書き・計算に課題</b></p> <p>インフォーマルアセスメントに基づいて様々な課題に取り組んできたが、成果がわかりにくい。指導内容を精選する。</p> <p><b>LDI-Rで基礎的学力を確認</b></p> <p>↓</p> <p><b>STRAW-Rを実施</b></p> <p>ひらがな単語の読みの流暢性に課題。見てわかる語が少ない。</p>  <p>音声を使った支援方法は継続</p>  <p>漢字+音声+挿絵に改良予定</p>  <p>10の合成をアプリで取り組み、たし算がスムーズに</p> <p>↓</p> <p><b>道具やアプリを使って、児童が自分で学習できる方法を提案</b></p> <p>↓</p> <p><b>文の読み取り課題は教員と一緒に</b></p>  | <p>主訴は漢字が書けないことであるが、アセスメントで確認</p> <p><b>STRAW-Rを実施</b></p> <p>漢字の読み書き・一部のひらがな、カタカナの想起の正確性・流暢性に課題</p> <p>↓</p> <p><b>読むこと・書くことを中心に</b></p>  <p>・写真や絵を手がかりにすばやく正確に想起。本人に合う問題を担当教員が作成。</p> <p><b>筆順</b> ・左から右へ書く<br/> <b>漢字</b> ・自分で調べる力<br/>         ・自分で入力し、何度も読み上げさせて確認</p> <p>↑</p> <p><b>児童が自校でも活用できる方法で指導</b></p> <p>↓</p> <p><b>読む・書く</b></p>  <p>児童の強みを生かした、部首の構成や使い方の学習は教員と一緒に</p> <p>↓</p> <p><b>B校通級指導担当教員</b></p> <p><b>Teams</b> で情報共有</p> <p><b>児童在籍校支援教育 Co</b></p> | <p><b>ひらがなの読み書きに課題</b></p>  <p>・文字だけでなく、色、イラストや音声を手がかりに学習</p>  <p>自分の声で読みを録音し、何度も自分で確認</p> <p>↓</p> <p><b>自分で読み、書いて答える</b></p>  <p>↓</p> <p><b>ELCを実施</b></p>  <p>・読みと音韻処理能力を確認<br/>清音は読めるようになった</p> <p>↓</p>  <p>濁音・半濁音を含む物の名称や、ひらがな単語を素早く読んで選択する課題は iPad のアプリで学習</p> <p>↑</p> <p>↓</p> <p><b>ことばのやり取りや、意味を確認しながら読み進める学習は教員と一緒に</b></p> |

2学期から行ったオンラインによる指導法検討では、主に3つの指導モデルが形成された。A校（自校通級）は、当初の実践発表では通級指導の内容が多岐にわたり、児童の取り組んでいる課題の内容や、指導の成果が表れているのか把握することが難しかった。そこで、基礎学力や読みの流暢性についてアセスメントを実施した。その結果から、道具やアプリを使って自分で学習する手段を身に付けるための指導、担当教員と一緒に取り組む課題に分けて取り組むことにした。B校（他校通級）では、当初の主訴は漢字の読みの困難であったが、通級指導を開始するに当たり、目標を設定するための実態把握としてアセスメントを行った。その結果と合わせ、別の課題で模写はできることを確認し、児童が自校でも使えるアプリを選び、児童が自分で使えるようになるまで丁寧に指導を行った。また、児童の所属校でもアプリの使用が認められるよう児童の所属校の支援教育コーディネーターと Team を作成し、オンラインで情報共有を行うことにした。C校については、ひらがなの読み書きが困難で特別支援学級に入級してきた児童の読み書きの指導について報告した。当初から iPad の活用は行っていたが、それだけでは習得が難しかった。そこで、自分で読んで答える課題に毎日取り組んだ。どの程度読めるようになったか確認するため、PC 読み上げで実施できるアセスメントを実施し、流暢に読むことは難しいが、清音は読めるようになったことを確認した。そこで、語のまとまりを素早く読み、選択する課題は iPad のアプリを用いて児童が自分で学習し、語彙概念を広げるための読み書き課題は教員と一緒に取り組むようにした。

## 6. 今後の課題・展望

1年間の取り組みを通して、教員ネットワークを形成し、活用することはできるようになった。通級指導担当者の Resource として今後も継続していく予定である。校内でたった一人しかいない通級担当者にとって、自分の主観に左右されない客観的なアセスメントを行うことは、短い時間しか指導できない担当児童の指導内容を精選する際には、非常に有用である。そのプロセスを経てからこそ学習上の困難を解決する方法として、タブレット端末を使用して、児童が自分でできる方法を選択したり、対面でしか学べない方法で指導したりすることができると考えている。幸い、教師用端末が11月に配布されたが、児童用と同じくセキュリティが厳しく、児童に使わせることも原則できない。助成金で購入したタブレット端末で児童の指導に必要なアプリを探したり、試したりすることは今後も必要である。1年間の取り組みを振り返ったアンケートでは、初めて通級指導を担当する教員から、オンラインによるサポートがあったからこそ、児童の困り感にすぐに対応できた。また、他の教員からはオンラインミーティングで指導法検討には出さなかった児童の指導内容の精選にも、役立つ知識や考え方が得られ、指導に反映できたとの意見が多く出された。

## 7. おわりに

同一校に同じ立場の教員がおらず、またどのように指導スキルを身に付けていったらよいかわからないという不安を常に抱えている通級指導担当者に対し、オンラインネットワークを活用することは大変有用であった。同時に、本研究に対してもオンラインでサポート頂き、他校の先生の貴重なご意見を伺いながら活動を修正できました。感謝申し上げます。